

- がそういった児童に寄り添う名目で迎合していきようになり、さらに保護者も学校の責任だと転嫁してくる方が多く、ますます弱腰な対応になっていると思う。
- ・塾に通い、受験する子供が多く、子供たちの生活に余裕がないように感じる。その余裕のなさが、友達との関わり方にも影響しているのではないか。
 - ・子育ては1人ではできない家庭学校地域みなであたたかい子供にとって大事な支援(甘やかすことではない)大人になるために必要な教育をしていきたいです。
 - ・学級全体の人数が多い。また、教員が少なく、負担が大きい。子どもも、落ち着きがない子が増えてきたように思う。
 - ・受験ストレスで学校生活に影響がある子どもが多い。
 - ・教育センターとの連携に、かなり助けられています。今後も、連絡、連携を密にさせていただきたいと思っています。
 - ・個人の尊重に傾きすぎていて、集団生活に困難を抱える生徒の増加。保護者も同様、(夜遅くに対応を求められたりすることや、受験期に学校を欠席することなど。)
 - ・特別な支援を必要とする生徒(発達障がい、不登校 etc…)が毎年増えているように思う。個別に対応が求められるが、学校の教員だけでは到底解決できる状況にない。もっと教育(日本の未来のために)に投資して頂きたい。
 - ・こなすべき仕事が多く、もっと子供とゆっくり向き合ったり授業準備をしたりする時間をとりたいと感じる。また、特別支援教室担当の教員の人数が少なく、本来、児童の在籍学級に行動観察をしにいきそれを元に指導・支援を行っていくべきところを、観察の機会をとることが難しくなっている。(ほとんどできない)
 - ・親、子どもともに余裕がなく、朝から疲れがみえる。とくに土曜授業や、明けた月曜日は、集中力が弱く落ちつかない。また、以前持っていたクラスでは土曜授業にクラスの1/3が休むなどし新しいところを進めることができなかった。
 - ・子供たちを取り巻く環境が大きく変化してきている。子供たちが学校という一つの社会の中で互いを思いやり、認め合い、受け入れ安心して生活できるよう担任として環境調整し、よい学び合いができるよう努めている。この経験が積み重なり、より広い社会の中で生きていく力を育んでいきたいと思っている。
 - ・習い事が多く、自由な時間が少ない様子の子がいる。SNSでのトラブル増化。
 - ・区内小学校において、人が足りていない、よりよい教育、児童の安全のために人を配置してほしい。
 - ・学校が子育てにどこまで介入していいか悩む時がある。
 - ・この学校は、子ども達のために本当によく働いている先生方が多い。そのため、子ども達は落ち着いて取り組んでいる。他の学校は落ち着かない6年生が多いと聞く。働き方改革という名もとの教員の怠慢は、学校の価値を上げてしまう事が多い。子ども達が安心して過ごしていけるためにがんばっている先生方を
 - ・外国籍の転入が増え、学校生活に多々苦勞している生徒がいます、指導も困難を感じる。
 - ・特別支援学級について、講師時数など確保していただき、通常の生徒たちと同じように専門性の高い教育を受けられるようにしていただきたい。インクルーシブ教育というが、不登校生徒を抱える固定級の実態をしっかり把握していただきたい。
 - ・教員数が増えると良い。35人学級が実現すると良い配慮が必要な生徒の支援員がつくと良い、都S-roomの教員数が利用希望者、利用検討中の子どもの数に対して少ない。どの子どもも安心して学校生活を送れるようにしてあげたい。SCや、ICT支援員は常駐してもらい、子どもの心の安心やICT環境の充実を実現してほしい。
 - ・教育への予算をもう少しさいてほしい。デジタル教科書が入っていない学校があり。他区から異動してきて驚いた。
 - ・学校の管理職や教員、特に養護教諭や特別支援教育コーディネーターは子どもの情報をたくさんもっている。ぜひこれらの人材を活用して子供達が自立した社会人と成長できるようサポートしてほしい。
 - ・支援が必要な生徒は通常級での授業がむずかしいことがあります、教員1人で対応がしきれません。
 - ・7頁にも記載したが、個性的な親子どもが通常の学校内(もちろんスキップ内)で、叱られたり、注意をうけたり。学校に通えない児童を学校に戻す努力をしたり。現存の学校教育では合わない児童、家庭が増えてきているので、長野県にあるような、公立私立小学校のような特認校ができると幸せになれる児童が増えるのではないと思っている。
 - ・様々なクレームが教育委員会に連絡されていると思いますが、実態を公平にとらえ、特に学校現場については指導主事の方にきちんと見ていただき、上からの指導ではなく共に解決に向けて悩みや苦勞を共有していただきたいと切に願います。現場だけの対応では教員も管理職も病んでしまいますので。

- ・ 教師や子どもが使いやすい ICT 機器の整備をお願いしたいです。
- ・ 外国籍の生徒への対応は、特に言葉が通じないだけでなく、公共のルール、マナーを守れず余りの子たちか大きな被害を受けケースに直面しています。正直手に余ります。今後、このような生徒が増加する傾向にあると思いますので、日本語教育や、学校生活習慣を、本気で、徹底的に身につけさせるといった気概をもって、人員の配置や、予算の編成などを行っていただきたく思います。よろしくをお願いします。
- ・ いつもありがとうございます。上記の質問については、どうしたらよいかわかりません。現場としては、よりない教育活動を行っておりと努やしております。そのため、より平易な備品の購入や、私均 PC 等の活用を認めてくださると助かります。
- ・ ”土曜公開授業は、大人も子供も負担感が強く、回数を減らした方が良いのではないかと私自身感じているし、保護者からもそういった声を聞く。
- ・ 問9 ク 子供が基本的な生活習慣を身につけていないことについて、メディアについてのルールを決める サ 虐待・ネグレクトの疑いのあるケースが増えていることについて、チームで早期発見に努め、情報共有、対応にあたる”
- ・ 土曜授業、公開回数を減らしてほしい。または、月曜を振休にして、2 日休みをとれるようにしてほしい。空き教室(多目的室)がほしい。昔はあったので、クラスや学年で色々活用できていたが、今は1つもないので、クラス人数が多いクラスは、活動の際に制限がかかる。子どもの主体性をのばすためにもぜひ。
- ・ 教育現場はとにかく人が足りません。配慮を要する児童も増えてきているのに、担任一人では目がいきとどかなかったり、手助けが必要な時にできなかつたりします。1 学級の人数を減らすか、補助の方をぜひ増やしていただきたいです。よろしくをお願いします。
- ・ 教育・保育には人の力が重要だと思う。そこにしっかり人をつけ、早めに対応していくことが大事なのではないかと。
- ・ インクルージブとはいうけれど、就学相談に関して、もっと親身になって学校を助けてほしい。様々な条件の子をうけ入れるなら、親への理解、適切な子への対応について親も含めて相談ののったり、つきそったりしてくれる人材はもっとたくさん必要になる。ひいらぎ学級の充実、1 年で退級の原則を変更し、必要に講じて入級できるようにしてほしい書類等担任への負担が減るようにしてほしい。1 クラスに 5 人以上の発達障害をかかえる時もある。「あとは現場で」と言わず積極的に助けてほしい
- ・ 平日に忙しくしている子が多いので、土曜日の学校公間があると、翌週月~金まで、体調不良を訴える子が多く感じる。日頃忙しくしている子どもたちなので、土日は、ゆっくりしたり、余暇を楽しむ時間にあててほしいと思います。保護者からも「毎月が多い」という意見をもらいます。
- ・ 福祉の現場と教育の現場が、もっと密接に関わって協力していけたらよいと思う。福祉の中の教育、環境、学校現場に近づけていけたら嬉しいです。よろしくをお願いします。
- ・ ①区の自己満のために、学校の子どもを使わないでほしい。(ISS、SDGS フェスライバル、何かのイベントへの急性参加要請)子どもが学ぶ権利し時間をうばいますけど、ありえないと思いませんが子どもの権利ですよね?②就学時健診を区教委でやること。(授業カットしている)
- ・ 豊島区の教育の特徴をもっと出して良いと思う。現場に伝わっていない。特別支援を要する児童について。特別支援学級へ、学校適の子が多く、在籍している。子供についても、教員にとっても、無理が生じている。きちんとその子に、適した就学をさせるべきであると考え。その子のためにならない。
- ・ ・グレーゾーンの子たちが学べる場や行けるところをふやしてほしいです。たとえば「コズの木」は自分のペースで…といいますが、勉強をゆっくりと教えてくれるわけではないので、1 人 1 人のペースに合ったはやさで学べる場所があるといいです。
- ・ 日本語指導の機関を充実させてほしい

8-6 放課後対策(学童・スキップ)

- ・ 子どもスキップは待機児童なく受け入れ可能な枠が設けられているが環境、職員配置が人数に見合ったものではなく子どもの収集、見守りが主となり子どもへのシワ寄せが大きい、各施設の定員縮小の検討をしていただきたい
- ・ 以前働いていた子どもスキップの学童クラブは、仕事の環境がとても悪く、毎日ストレスを感じていました。子どもたちにとって学童指導員は、学校の先生でもなく、親でもない大人。何を言っても良いと思っているのか、毎日暴言をあげられつらかったです。いつも学童指導員を募集していますが、今のスキップでは、やめていく人が止まらないと思います。
- ・ 豊島区で子育て(小学生、幼稚園児)をしています。学童や放課後保育(幼)に希望すれば入れる体制にあることが大変ありがたいです。幼稚園の保育は 17 時までなので、学童と同じように延長をやめて 18 時まで預けられると助かります。

- ・私は隣区に住んでいるが、学童保育がNPO法人や民間業者で、非常に良い。豊島区のスキップ(区運営)は一見安心に見えるが、熱量やスキルが足りていない印象である。区立保育園も、学童保育も、区ではなく、もっと民間委託にした方が良い。(区立保育園は本当に区でしか運営できないような手のかかる子ばかりの障害児のみで、OK。)
- ・スキップの人員不足(補助指導員ではなく、指導員や主査級の正規職員の配置)の改善が必要だと思います。
- ・以上のことで…スキップで働いていますが、この子どもたちを安全安心させ預り、見守っていくために、職員不足です、よろしく願い致します。
- ・学童の話を知ると多勢の子どもたちが過ごすことが多くひとりひとりに目を向けていくことは難しいという。子どもたちが安くしてすごせる場所、またそばにいる大人を増やしてほしい。
- ・児童館の中に学童クラブがあった頃は、広さもあり、子どもたちが自由に遊べました。クラブの職員にも余裕があり、子どもの様子もしっかり見られたと思います。今は、子どもの数が多すぎて、ひとりひとりにしっかりかかわれません。スキップの職員補充も大切ですが施設環境を考えていただけたらと思います。
- ・保育園では、情報面や社会性等の発達に凹凸のある子どもが増えている、クラス内に数名いると一人ひとりへの対応が必要となり対応スキルも求められ担任は精神的肉体的に疲労している保護者も育児や友達関係で悩んでいる西部子センでは予約がとりづらいので民間の療養に通う子どもが多い。
- ・保育所で勤務しているが、保護者の要望や時代の背景(着替えの時はプライバシーに配慮等)で求められることが増えている。職員が安全に保育をしながらそれらに答えられるよう、人員をさらに増やしてほしい。
- ・少人数保育を行うにあたっての十分な保育士の人数がいらない。・PCを使い環境が整っていない。(電波が届かない部屋が多い)環境を整えてほしい。・1クラス、1部屋に対する子どもの人数が多すぎる。
- ・保育の考え方や方法は就労時(30年前)より大きく変化しています。子どもにベストな事は何かのものの変化です。その中で1人でできない保育を保育工同工個々の保育観特性を上手く組み合わせています。考えの方向や話し合いは大切です、事務含め、その時間確保の難しさを感じています。又話し合いや保育が上手いかずハラスメントを受ける事も有り悩む事も有ります。関わる大人が
- ・一人ひとりの子どもに丁寧にかかわり、子どもたちが主体的に過ごす保育を実践するには、正規保育士の人数がもっと必要である
- ・特別配慮が必要なお子さんの保育や様々なニーズに対応していくためには、より丁寧な保育や保護者対応が求められる。その中で、子どもを第一に考えていきたいが、事務仕事が多く時間内で終わらせることを考えると、時間も気持ちも余裕が持てないのが現状。
- ・保育園給食の定量化にご疑問。子どもの人権を考えるのならば、自分の食べられる量を選べるべき。献立を考えている栄養士は、現場の状況もわかっていない、食育の研修を受講していない。不安しかない。・職員が楽しく仕事をしているのかなと思う。なんとなくつまらない。
- ・配の保育士は付かないが、実際は大人1対1の対応が必要な子、望ましい子がいる。しかし、そこに保育士が1人付くと他の子の対応ができないという悪循環。即戦力になる保育士の配置をしてほしいです。あと、他区が行っているから豊島区も。ということはやめてほしい。保育サービスは充実すると思いますが、そこに対応する現場はいっぱいいっぱいです。事業や園運営に見合った職員の配置、場所、子どもの定員を考慮する必要があります。そうしないと安心・安全に保育できません子どもを守り切れません。

8-7 保育園

- ・子どもの気持ちによりそう保育は大切だと思うがそれには人も時間も必要になってくると思う。
- ・年々、支援が必要なお子さんや保護者が増えていると感じます。そのような家庭ひとりひとりに寄り添い保育していくには、職員の質の向上も重要になってくると痛感しております。
- ・保育園(幼稚園)のころは、何だかんだ言ってもかわいかった子たちが小学校に入ったとたんに、こうも変わっていくのかと思った。大体が家庭背景、保護者がきちんと子どもを見ているかが、すごく大きいと思った、親育てをしていかないと、危機感を持ちます。
- ・近くに気軽に相談できる場所はあるが、個人個人でハードルが違うため、開かれているものの、自分で行動しづらいのかもしれない。保育園職場なのでマイほいくえん登録で家庭とのつながりをもつ手段はあるが、広く知ってもらい、気軽に利用してもらえれば良いと思う。
- ・保育所はたくさんの子がいるが、スペース狭く・おもちゃは古く少ない、絵本はボロボロ…子どもに関わる(発達)ものにお金をかけてない。親の楽になることばかりに使っている。子ども自身が使ったり、過ごすものにお金をかけて下さい。

- ・安心して子どもを見守れるよう保育士の数を増やしてもらいたいです。
- ・スクールカウンセラーのような職種の職員を保育園にも配置してほしい、巡回相談員(東部子家セン)の方の負担がかなり大きくなっていると思う。
- ・他の区の施設(区民ひろば)等とくらべると、設備や環境が整っていないと感じる。もう少し予算を計上し、子どもが過ごしやすい保育園になるとよいと思う。
- ・入区した頃、延長保育はなく、保護者も5時頃には迎えにきてという時代でした。子どもが少しずつ少なくなることで、保護者と沢山話をする事ができました。その後、保育需要が増え、区からの事業も数々おりにきて、人は増えないままで保育をしています。親と話す余裕もないこの現状は、子どもにも保護者にも、働く職員にもよくないです。皆が幸せに子育てできる環境をおねがいしたいです。
- ・各保育園に、1人ずつ、職員をプラスで配置してほしい。
- ・保育士(正規)を増やしてほしい。保育士も充実したワークライフバランスを送れる生活を!!それが保育にもつながると思います!
- ・1日生活をする子どもたちの保育室の環境が悪い(狭い)その狭い空間で工夫してもどうしても全員で、いなければならぬ状況もあり(時間)ケガが発生したり、トラブルの原因となっている。人員(職員)も足りていないが1クラスの人数(子ども)と考えてほしい。
- ・保育園や保育課、様々な機関が今後も連携をとりながら子育て、保育を行ってほしいです。
- ・保護者の利便性も重要とは思いますが、保育者等の労働についても考えてほしい。保育者もゆとりを持って楽しくゆったりと保育できることが、一番大切である。子どもの育ちに直結。
- ・おかわりできるようにしてほしいです。(保育園)保育者(大人)も一緒に食べることができる、とてもいい食育の場になると思います。・保育士の人数配置をもっとふやしてほしいです。配慮が必要なお子さんがいるクラスもあるため、増やしてほしいです。(保育者と子どもの関わりが必要)

8-8 子育て支援サービスの充実

- ・いろいろな子どもがおり、その1人1人に愛情を持って接していく上で、職員の手も必要で、仕事に余裕を持ち続けられる環境を整えて欲しいです。
- ・区民ひろばや保育園・子家センなどとつながっている親子よりどこにもつながらない、気づかれな

い親子が心配。どんな親子も、孤立しない対策が必要。

- ・もっと各家庭にいていねいに関わるには人員が必要。
- ・「子育て支援」という親に向けてのサービスと、「子ども自身の育ち」の為のサービスは根本的に異なる。親が「楽になる」⇒「余裕が持てる」ことは必要。でも、親を支えることだけに主眼が置かれると、子どもは置き去りになってしまう。キチントとした線引きが必要な時代だと思う。
- ・子育て支援が必要な家庭が増えてきて、支援の方法(それぞれに合った)が難しいなと日々感じています。
- ・核家族化が進んでおり、保護者へのサポートが必要な場面が多様化していると感じる。
- ・子育てに手厚い豊島区でとてもよいのだが、種類が多く、事業名が同じようだったり、名前だけではどんなサービスがわからないようである。保育園の施設見学の時に1つ1つの事業について具体的なことも含め説明することで「ようやくわかった」「聞いてはじめてわかった」と言われたことがあり、整理した方が
- ・子育てに不安をもつ親が増えている。不安を相談できる友人がいれば良いが、SNSでの情報過多もあり、子どもと共に家庭ごとふりまわされている。誰かに頼れる安心感はたしかに大切だが、子育てを誰かがしてくれる、あるいは、親の思うように育てたい、という両極端な思いが、どんどん強くなっているように思う。前者は無責任に、後者は他人の考え、外からのアドバイスには見向きもしない。学校という場に対応しきれないは案件はふえる一方だ。
- ・子育てをできる能力(責任能力も含む)が低い家庭が多く、教員の勤務内容を越えた家庭の問題を扱うことも多々あるのが現状だと感じている。
- ・豊島区は行政だけではなく民間のサポート(子育て)も充実していると思うが、あまり知られていない実態がある。子ども食堂等の情報も、もっと周知されると良いと感じる(ワクワクネットワークや)子ども若者課がどういう支援、サポートに強いのかを明確にうちだいで周知してほしい
- ・母と子の愛着関係が十分にできていない子どももいるように感じます。保育園でも子どもにとって大切なことは伝えていくように努力していますが、出産前等から子育ての知識、大切なこと等を学ぶ機会があれば良いなと思いました。
- ・今後も子ども支援に関する取り組みを進めてください。
- ・さらに子どもを、ほったらかしにしていないだろうか、パインクのお金になって、子どもを、車に置きざりにする事件はあとをたたない。本当に子どものためにつかうお金とは何か?このアンケート

トにも多くかかっているが大人がゆったりと子どもの声を聞いたり、子どもの気持ちをくみとるには、子どもと接する人がいなくてはならない。人材不足、子どもが育つ環境、保育園、幼稚園、学校、学童にもっともっと人材を増やし、ゆったり過ごせる環境にお金を使ってほしいです。

- ・私が親だったら、無料で利用できる育児支援を充実させてほしい。1時間700円や900円も高いと感じる。民間のサービスと比較することなく、大きく進んだ子育て支援を考えるべきだと思う、できなくても最初~時間、~回無料のようにサービスとつながりやすい工夫も必要。窓口も1つにして、利用する側の利便性を高めてほしい。

8-9 障害児への支援

- ・自分自身の子育てについて、発達障害がある子どもがいる場合の働き方について、より多くの支援をして頂けたらと思います。特別支援学級に通わせる場合、小学校では3年生頃まで大人の送迎が必要なのですが、共働きだと難しく、仕事を辞めてしまった方もいます。ぜひ、特別支援学級に通学する子のいる親が、柔軟な働き方ができるようにして頂きたいと思います。(勤務時間の柔軟な対応や、休暇の増設、等。)
- ・保育士数が圧倒的に足りない。子どもの話を聞きたくてもその子だけにかかりきりになるわけにはいかない。他でトラブルが起きれば、その子のもとを離れることだってある。権利があるのは十分理解しているが、現実に対応できるときとできないときがある。また、障害者手帳を持っていないため、保育園に加
- ・発達障害と思われる子が増えており、その子どもたちの理解と支援が必要であると感じる、(障がいと認定されていないが、困っている子どもたち)

8-10 医療・健康

- ・①セーフコミュニティが行き過ぎている。危機察知能力は己の失敗(小さなケガ)の積み重ねで芽生えていくが、その失敗が許されない環境(守られすぎの環境)に、メンタルも体も弱り切った子たちが増えていて、とても恐い。②外国籍の子が凶太い。日本人ががんばれ…。
- ・最近の子供は弱くなったと感じます。自分の考えや意見や質問が言えず、親が代弁することが多いです。
- ・自分で解決する力が弱いです。何かあるとすぐに逃げてしまう、かくれてしまうので、自分がどうしたいか、どう行動すべきかが「わからない」と言います。

8-11 経済的支援

- ・配慮が必要な子どもの割合が増えている。グレーゾーン・経済的に苦しい家庭が増えている。経済格差が、教育格差(経験、進路選択)につながっている。
- ・根本的に子どものいる家庭への10万円などの援助は本当に子どものためになっているのか?
- ・どれだけ子どものために使われているのかそろそろ国も考え直す必要を感じる。もちろん子どものために使っている方も多くいると思うが、そうでない1部の人がお金をもらうことによって
- ・ご家庭によって貧富の差がとてはげしい地域だと思います。一人親世帯や支援が必要な家庭について、現金給付等の支援がもとめられていると思います。
- ・区も都も子育て支援として給付金を支給していますが、子育てしていて本当にお金がかかると感じるのは中学<高校<大学です。高校の授業料の無償化等ありますが収入で制限があることで結局補助がない状況の人も多くいます。かかる費用に見合った補助になっていないと日々感じます
- ・人やお金がしっかりついてはじめて子どもや保護者の支援ができると感じています。
- ・人に対してのお金をつかった方が良くと思う。
- ・もっと教員の給料を上げる、残業代を出すなど対策をしてほしい、現場は疲弊している。
- ・シッター利用の補助金を増やす(保護者向け)・民間の子育て支援関係の施設に補助金を増やす。
- ・共働きがふえていて、子どもたちがさびしい思いをしている。発達にも大きな影響がでる。少しでも子どもたちと親の時間がとれるように、経済的負担を全ての家庭に対して減らしてあげてほしい。

8-12 情報提供・相談支援

- ・気軽に相談できる場親御さんたちにもっと知ってもらえたらと思います。
- ・職場では、解決策を求めているだけでなく、自分の困り感を聞いてほしい、誰かと共有したいと考える保護者や生徒が増えていると感じる。是非、SCなどの相談窓口や、気軽に話せる機会(チャットやライン)があると良いと思います。
- ・現在、配慮が必要なお子さんや支援が必要な保護者がとても増えていると思います、そのため、保育士も今までのような対応では対応しきれず、日々悩んでいる状態です、以前に比べ、連携機関や相談窓口は増えていても難しいことが多いと感じています。
- ・たくさんの研修等勉強の機会を頂きありがとうございます。

- ・子育てに対する親の悩み、不安は共感しながら安心して子育てできる環境が必要な反面、何でも手助けを必要とする親が増えると親としての成長の心配も感じることもある、いつでも相談できる場所があることに対するの安心は、持ってもらいたい。
- ・研修の機会が充実しています。
- ・親御さんが気軽に相談できる場があまりなく、親同士も保育園の送迎じかんも異なりゆっくり話す場がない為一方通行なネット情報を頼りがちなのは気になる。
- ・相談先、発信先が増えたことは良かったと思います。これからはその相談を受ける側の質の向上に目を向けて人材育成等、検討して欲しいです。
- ・区が子育てに関して取り組んでいる事は、多くあると思うが情報を調べないとわからない知ることができないと思う。SNS や TV など誰もが知り得ることのできるサービスがあっても良いと思う。

8-1 3 住環境・まちづくり

- ・豊島区で働けてよかったと感じたことはない。これといってみ力的なことがない。
- ・最近、子どもを虐待したり、殺してしまったりと、悲しいニュースを見たり聞いたりする度、もっと早くなんとかならなかったのだろうか…と、胸が痛みます。隣の家、家庭、両親、誰でも良いから、話を聞いたり、手を差し伸べることが出来る環境があることが、子育てには、とても、大事なのだと思います、そんな環境づくりを是非作って。
- ・体全体で自然とかかわる体験を、どのような環境に生まれた子どもでも享受できる機会が充実するとよい。パブリックアートなど、どのような環境の子どもでも芸術的・文化的なものにたくさんアクセスできる、本物を見ることが出来る機会が充実するとよい。
- ・区の東側に住んでいる方にとって、西部センターは遠く、フットワークバスも利用しづらいので、イクバスをもっと活用してほしい。又は、運賃も安くしてほしい。
- ・生活科の秋さがしでドングリ拾いをしようと思うと光が丘公園まで行かないと難しい、区内の公園でドングリの植栽を増やしてほしい。
- ・3年社会の副読本「はばたけ豊島」の冊子版を復活させてほしい。

8-1 4 地域の子育て支援

- ・子育ては日々変化する(成長する)子どもに合わせて、様々なことを教えたり、聞いたり、と対応することが楽しさであり、大変さだと思う。子育て

てをしていくうえで、家族や職場、地域の支援がとてもありがたい。

- ・私の勤めている地域は、大人が子どもたちを、見守り、とても、落ち着いたよい地域である。これからも、地域の大人が子供たちを、あたたかく、見守っていただきたい。

8-1 5 ワークライフバランス

- ・職場で人員配置が満たされていても業務が時間内に終わらないことや、病欠などで人手が不足した場合に、すぐに補充できない状況が続く場合、辛い。
- ・優しくない、いそがしそう、つかれている。
- ・日々このような思いで仕事をしている。今の時代はワークライフバランスが、大事だと言われているが、賃金が低かったり有給が取得しづらい現実がある。改善を求めたい。

8-1 6 豊島区の子育て環境の充実

- ・子育てに余裕がない(両親の疲弊や母親のワンオペなど)ために、子どもに対して、きつく当たってしまったり、行政に対して不満がある家庭があります。(保育料が高いなど)
- ・豊島区子育て環境やひとり親支援サービスの充実を検討してもらいたい。
- ・どうしても大人都合で子どもに働きかけてしまうことが多いので、子どもを真ん中に、いろいろなことを考えたり話し合ったりすることができればいいなと思います。未来を担う子どもたちが豊島区で安心してすごせるように、自分に自信を持って生きられるように、豊島区の職員として協力していきたい。
- ・同じ豊島区の子どもとして、受けられるものや環境ができるだけ同じになるとよいと感じている。
- ・豊島区在住で、0歳と2歳の子どもがおります。平日、休日問わず、豊島区で行われるイベントや、その対象年齢がまとまったHPなどがあれば、各家庭充実した休日になるのではないかと思います。
- ・保育園のニーズが高まると同時に学童保育のニーズも高まるのは必然的。豊島区は、ニーズに合わせて定員数を増やしていることで、学童入室に待機児は無しという状況、他自治体では、入室できず、困る家庭がいる中すばらしい施策をしていると思う。さらにそこに、質的な向上も考えてもらえると、豊島区の子ども若者施策の発展につながると思います。
- ・区では「ゆりかごから墓場まで」と様々な支援が充実していると思うので、今後も取り組んでいって欲しい。

- ・ 子どものため、保護者のためにやってあげたいことは沢山あるのですが、現場の負担になるだけだと、その気持ちもなかなか続きません。人や予算などはしっかりつけてから様々な事業をスタートさせてほしいと思います。
- ・ 区がいろいろなシステムで、児童をサポートしようとするのは、伝わってきます。家庭と関連諸機関がうまく連携できると良いと思います。
- ・ ③見てくれだけ整えて中身スカスカの行政、中で働く人間が苦しんでいます。見てくれだけに魅力感じて集ってくる人間もお察しです。中身の充実を図るべきでは?人も行政も。
- ・ 良いのではないかと思うことが、今年度は特に多かった。外国人の方はサービスを受けたいけれど難しくあきらめてしまう人が多いのではないかと感じている。新しく始めることが多い、何がなくなったのかよくわからない。
- ・ SDGS、ISS と流行に流されやすい区なのかと感じている。新しく始めることが多い、何がなくなったのかよくわからない。
- ・ 働き方改革などで、事務的作業の軽減してほしいです、特に、アンケートが多いです。それに当てる時間が多すぎる。
- ・ 意見を強く言える大人の言葉が区民のニーズと思うことに疑問を感じている。サービスニーズにかたよらず、子どもまんなかにして、何が必要なのかを考えて欲しい

8-17 その他意見

- ・ 子どものゆとりがなくなっているように感じる、タブレットですぐに、正解をみつけようとしたり情報をうのみにしてしまうところもみられる。直に見たり触れたりして実感する機会や自分なりの答えを導くためにじっくりと考えるなどの時間が必要、大人も子供も。
- ・ 夜ふかしをしている子どもが多い気がします。
- ・ 子ども…学校以外に習い事をたくさんしているので、毎日、忙しくしている。そして、日中の学校で、疲労を訴えることがある、もう少し、友だちと遊ぶことのできる時間を持たせてあげたい。
- ・ 自分を見てほしい、認めてほしいと感じている子どもが多い。失敗を受けとめられずに、人のせいにして逃げようとする子どもが多い。基本的には、素直な明るい子たちだと思うので、間違いは素直に受けとめ、改善して成長していける人になってほしい。
- ・ 小学生は親の期待に応えようと頑張る姿がある。疲れても休み方を知らない子がいる・失敗をおそれて挑戦したらない子がいる。
- ・ 住民だけでなく、職員の声もしっかり聞いて意見を取り入れてほしい。(上層部でなく若者の)
- ・ よりよい保育を行っていくには、人員、環境が大切です。十分な配置や整備をお願いしたい。
- ・ 年休が毎年消化できずにいるが、役所の方々は余らせず取れていると聞くと差があるな～と感じる。
- ・ 子育てには人の手が必要、そのために福祉にはお金をかけて頂きたい。私たちも頑張ります。上の方にはぜひ現場を見にくる機会をたくさん作って頂きたいと思います。
- ・ 子どもの見本となり、子どもが安心して健やかに成長できる社会になって欲しいです。その為の人的環境や時間確保方法を考えて頂きたい。コミュニケーションの大切さを知り、自身も含め皆、学んでいかねばと思います。
- ・ 子どもも大人も余白/ゆとり/余裕が必要だと感じています。内容の厳選をして頂きたいです。
- ・ いつもありがとうございます。
- ・ 児童支援の研修はいくつかあるが、職員の勤務に余裕がなく研修を受けるタイミングがない、無利矢理つくれば受ける機会を見出せるだろうが、しわ寄せがくるだけ、適切な人員配置を求む。子ども若者支援に力を入れたいのであれば現場に即した人手を増やして欲しい。形だけのアンケートは要りません。正直期待感はありませんが、求められたので書いています。
- ・ 給食費の無償化など、ありがとうございます。これまで、未納者への催促の tel など、教員が行ってました。(その際に暴言を投げられることも)よく「これは教員の仕事?家庭の仕事?」と線引きがあやふやなものもあります、ビルドビルドではなく、必要なものを精査し、ふり分けて頂けたら助かります。
- ・ 子ども、若者に携わる職員が欠員の常態化というのはどういうことでしょうか。子どもを育てるには人の手間ひまがかかります。また、かけるべきです。そこを、充実させることによって区の豊かさにつながるとは思いますが、どうお考えですか?そして、待遇の改善も望みます。個々の善意、貢献心やる気などにまかせては職員は疲弊する一方です。
- ・ 調理の民営化も進み、食事は安全に提供すれば良いという事なのか。生きていく中で、食べること、それを誰が作ってくれていること、誰と食べたいかということ、その事を軽くみていると思う。・医ケア事業も上から言われたからと取ってつけた様な感じ。たった1名の為に何人もの職員が関わるならば、専門的な施設を作り、長期的に支援が受けられる様にするべき。
- ・ 子どもを支配する大人ではなく支える大人が増えるとよいと考えています。

8-18 本調査について

- ・この様なアンケートはできれば電子にしてほしいです。(時間がとにかかない為)
- ・忙しいのにこういったアンケート送らないでほしい。子ども若者課の業務はアシスとお話フォームも含めて、業務、負荷を増すようなことしかしていないように感じている。(当課のという意味)子ども若者課はリファーマーが多い割に別課からはリファーマーをあまり受けてくれない印象。どうにかして頂きたい。

8-19 保護者について

- ・援助が必要な子や保護者の増加が著しい為、通常の保育が立ちゆかない時もある。資格をもった大人の増員が義務であると思っている。(丁寧に対応したいがしきれない)
- ・教員だけでなく、様々な大人が愛情をもって、子どもに接していくことが普遍的に重要であると感じる。
- ・失礼ですが、年々、保護者の教育に関する意識常識が低下している。そんなことまで伝えなければならぬのかと思ってしまう。小学生にスマホを持たせるとはどのようなことなのか。ルールを守らせることは…など、欠けている。
- ・ネグレクトの親が増えている気がします。
- ・特に義務教育の中にある年令の児童、生徒には、親の影響が強いように思います。仕事のため、子どもの登校時間、下校時間の把握や、朝食や学校へ送り出すなどの時間を持っている保護者の子どもは安定しているように思います。保護者の子育ての関心が高まると良いのにと日頃感じています。
- ・習い事に行きたくなくて、身体症状に出ているが親に話しても状況変わらず、また、以前に比べて、親が子育てについて、自分たちで工夫をしなくなってきたと感じている。子どもにちが、遊ぶ時間よりも習い事の時間が多くなっていたり、親も子どもの成長にあわせたチャレンジをしていないため、子どもの成長のしかたに不安を感じている。
- ・子どもの権利は大切にしなければならないが、大人が道徳として正しい事、まちがえている事をきちんと伝えられなくなってきたと感じる。言い方、やり方は、時代に則していかなくてはならないが、子どもの正しい事を知らされる権利もあると思う何が正しいのか、大人も道徳をもたないといっていない
- ・子どもの立場ではなく、親が便利なサービスになっていると感じる。大人側にとってではなく、子ども側の立場から、子どもにとって何が必要か、

子どもの気持ちを尊重した保育になるとよいと思う(区への意見になるか?)

- ・親の育てる力が弱くなってきている。
- ・素直な子も多いが、塾や習い事のプレッシャーで苦しんでいる子も多い印象。いつの時代もそうなのかもしれないが「子供を自分の所有物」と勘違いしている大人が多いのかもしれない。
- ・子どもに接する大人自身も認められ安心して生活できる中で子どもたちも大切にされていくのではと感じる。(大人も受けとめてほしいのだと)・乳幼児期、また学童期に適切な関わり・サポートが必要である。
- ・豊かな人間性をもった人間を育てるには逆行する現状ですよね。大人も子どもも時間的・精神的、経済的余裕が必要です。今の子どもは動物的生命維持感覚すらもちあわせていません、のどがかかわく、おなかすいたを感じません。感情と言葉が結びついていません。人間としての土台がグラグラです。土地柄が経年変化か、劣化が顕著です。
- ・外国籍の保護者、生徒への支援を強化してほしい。彼らも安心して希望をもって学べる環境が大切だと思います。

8-20 支援者について

- ・支援員など、たくさんの人員を増やしてほしい
- ・多様性を大切にしている時代にもかかわらずそれを見守る大人の数が足りていない。現場の努力だけではむりが生じる。
- ・保護者が子育てに対して、様々な思い、方針、やり方がある中、集団として、過ごすことに難しさを感じる人が多い、大人の目は、多いことで、発見、気づきにつながる。どの職場でも人員の増員は大きな課題であると考えている。
- ・虐待、発達障害、ヤングケアラー等、子どもをとりまく課題が増えたというよりも、その状況を理解する人が増え、認知件数が増えたと感じています。過去、そのような課題にさらされつつも、当時はみつけてもらえなかった大人への支援も今後考えていけると良いと思います。
- ・小さいうちに対応できれば子どもも保護者も長く辛い思いや悩みを控えてよくなる。乳幼児期がいかに大事かを知っていただき保育士の増員を求めたい。
- ・児相が区に移管されたが、児童福祉のわかる、実践できる職員がいるのか疑問。区として責任を持って採用し、育成しなければならないと考える。

8-2 1 希望・活力

- ・ 行ってほしい事、またそのような人材を、育て、あたたかい地域の中で、子育てが、出来るようにして行って欲しいと強く思いました。
- ・ どの子どもあたたかく見守られながら子どもたちの成長を願う社会でありますように。

8-2 2 人間とのかかわり

- ・ 世の中の子育てにおける環境が大きく変わり、子育てかしくなっている様に思います。合わせて子どもたちの育ちもコロナから経験が大きく減り人との関わりが特に少なくなっている事が今後どの育ちに影響があるかは心配なところです。
- ・ 子どもの理解、保護者の理解、子どもの権利。どれも本当に大切なことなのに、忙しすぎてじっくり話す機会がもてないことに、日々悩んでいます。話すことで、職場での理解がすすむと思うので。
- ・ 家庭の横のむすびつき、地域とのむすでつきが弱くなっている。行政としての手だてを行い、共助的な関係を作れたらよいですね。
- ・ 「子どもまんなか社会」と、子どもを大切に思うならばそれだけの人材の確保は必要。・コロナが明けて、保育所、小学校、子どもスキップ、子育てひろば、東西の子家センとの交流、連携を積極的に行い、親子が豊島区で安心して成長できるよう支援したい。

豊島区子ども・若者の実態・意識に関する調査

作成日：令和6年3月

委 託：豊島区 子ども家庭部子ども若者課

〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1

TEL 03-4566-2471

受 託：株式会社 地域総合計画研究所
